

1995年度社会学コース学事報告

1995年

4. 1

[学部・大学院担当教員]

専任教員は、北川隆吉・皆川勇一・児島和人・玉水俊哲・米地實・柴田弘捷・宇都榮子の7教授、広田康生・嶋根克己の2助教授の9名。

このほかに、本年度外部よりお出でいただいた兼任講師の先生方は、赤川学（社会統計法）、青木章之介（演習2年次）、岩城完之（現代社会意識論特講（院））、岩田正美（社会学特殊講義Ⅳ）、小川直之（民俗学）、園田恭一（社会学史特講（院））、中筋直哉（社会史、社会学）、橋本淳一（社会学）、平野敏政（家族社会学、社会学、現代家族論特講（院））、松本由紀子（社会統計法）の諸先生。

学内の先生方で、鐘ヶ江晴彦（生涯学習論特講（院））、澤野徹（社会思想史）の2先生にもご担当いただいた。

社会学コース所属の学生は2年次73名、3年次97名、4年次104名の計274名（1995. 12. 31現在）。

大学院社会学専攻修士課程1年生7名、2年生以上5名、博士後期課程1年生1名、2年生2名。

- | | |
|---------------|--|
| 4. 1 - 7. 25 | 前期授業期間 |
| 4. 5 | 学部入学式 |
| 4. 8 | 大学院入学式 |
| 9. 2 - 9. 4 | 嶋根克己担当社会調査法実習実施。ケース記録のとりまとめと分析。御宿セミナーハウス |
| 9. 7 - 9. 10 | 玉水俊哲担当社会調査法実習実施。当該地域の自治体担当部課からの聴取調査及び関連諸団体・住民からの聴取調査。調査士は福島県白河市。 |
| 9. 7 - 9. 9 | 広田康生担当社会調査法実習実施。エスニック・ネットワークの研究、都市東京を舞台に形成されているエスニック・ネットワークの拾いだしの作業。国立代々木青少年センター |
| 9. 10 - 9. 13 | 柴田弘捷担当社会調査法実習実施。市役所、地方事務所、NEC長野、オリンパス光学工場他。インタビュー・資料収集・工場見学。調査地は長野県伊那市。 |
| 9. 11 - 9. 15 | 宇都榮子担当社会調査法実習実施。老人ホームにおける体験実習及び老人福祉サービス調査。調査地は社会福祉法人川崎市事業団多摩川の里。 |
| 9. 12 - 9. 14 | 北川隆吉担当社会調査法実習実施。ハイテク化の進行と市民生活の変容－市役所をはじめ諸機関・組織個人を対象に資料、統計の収集とインタビューによる調査。調査地は神奈川県相模原市。 |
| 9. 12 - 9. 14 | 皆川勇一担当社会調査法実習実施。町役場、農協、市民団体等に |

- 関する面接・聞き取り調査。調査地は千葉県小川町。
9. 13-9. 15 児島和人担当社会調査法実習実施。戦後50年をめぐるメディア受容過程のフィールドワークとその検討。軽井沢セミナーハウス
9. 14-9. 16 米地實担当社会調査法実習実施。現在の農村の変動過程を現地において調査する。調査地は茨城県真壁郡真壁町。
9. 18-3. 2 後期授業期間。この完12. 26-1. 7は冬期休暇期間
10. 7 大学院修士課程第1期入学試験
11. 18 大学院修士課程外国人留学生入学試験
11. 25 大学院修士課程社会人入学試験
12. 15 卒業論文提出最終日
- 1996年
1. 10 1995年度専修大学社会学会総会および大会開催
1. 開会の辞
 2. 会長挨拶
 3. 総会 95年度事業報告、会計報告、その他
 4. 卒業論文報告
 - ・全体講評 前谷典弘
 - ・近藤裕子（嶋根ゼミ）
 - 「多元的現実と<私>-多元的現実論考察-」
 - コメント 藤沢眞理子（修士課程1年）
 - ・白石佐智子（児島ゼミ）
 - 「異文化相互理解阻害のメカニズム」
 - コメント 東文彦（修士課程1年）
 5. 閉会の辞
1. 21-1. 25 卒業論文面接実施
1. 10 修士論文提出日
2. 1-3. 31 春期休暇期間
2. 5 文学部人文学科入学試験
2. 10 大学院修士論文口述試験
2. 27 大学院修士課程第2期・博士後期課程入学試験
3. 15 社会学コース専任教員・非常勤教員懇親会開催
3. 22 学部卒業式
3. 22 『専修社会学』第8号発刊
3. 25 大学院学位記授与式